

くにさき生まれのアートをもっと深く体験するなら

作品の周辺をのんびり歩いて、 地域の魅力に触れるのがおすすめ!

大分県北東部にある、お椀を伏せたような形の国東半島。その東部に位置する国東市では、穏やかな海と雄大な山々が織りなす景観や、神道と仏教が融合する独自の歴史・文化、ここに暮らす人々との交流のなかから、数々のアート作品が生みだされています。

自分のペースで作品の周辺をのんびり歩きながら、アートと国東市の魅力を深く体験してみませんか?

*作品の一部は山中に設置されています。夜間や悪天候は避け、歩きやすい服装での鑑賞をおすすめします。
*作品間の移動は車が便利です。



両子山からいく筋もの谷が伸び、その裾野は周防灘と伊予灘に囲まれています。入江と岬が入り組む海岸線や、峰々から瀬戸内海を眺望する風光明媚な景観は、瀬戸内海国立公園と国東半島県立自然公園に指定されています。豊かな自然に恵まれた国東市は海の幸・山の幸も豊富で、太刀魚やたこ、原木栽培の椎茸など、四季折々の旬の味が楽しめるのも大きな魅力。



平安時代後期に宇佐神宮の化身・仁聞菩薩が国東半島で修行し、半島全域に数多くの寺院が開かれたことから、国東半島は神仏習合文化発祥の地と言われています。古くからある山岳信仰に仏教と神道が融合したこの独自の文化を「六郷満山文化」と呼び、国東市内には今も古刹や祭りなど、地域固有の文化や慣習が多く受け継がれています。



たくさんのアーティストが創作に打ち込むアトリエやギャラリーが点在する国見町伊美は、『ギャラリー通り』※と呼ばれています。『ギャラリー通り』では、地元のアーティストならではの、国東のとおき情報が聞けることも。ぜひ、たくさんのアトリエやギャラリーをめぐって、個性豊かな表現に触れ、作家との交流を楽しんでください。

※『ギャラリー通り』の場所は広域マップをご参照ください

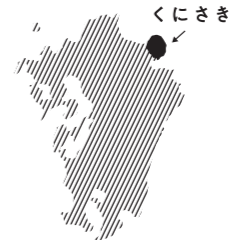
国東半島 詳細マップ & 広域マップ

交差点や分岐点など、
いくつかの迷いやすいポイントを
拡大地図にてご紹介します。



歩いて楽しむ、
くにさき生まれの
アートをご紹介

国東市



2020年度

めぐりにさき アート



Photo: Takashi Kubo (C)KUNISAKI ART FESTIVAL Committee

お問い合わせ先

国東市 活力創生課 Tel:0978-72-5175
〒873-0503 大分県国東市国東町鶴川149番地

A 成仏プロジェクト

Hundred Life Houses

宮島達男

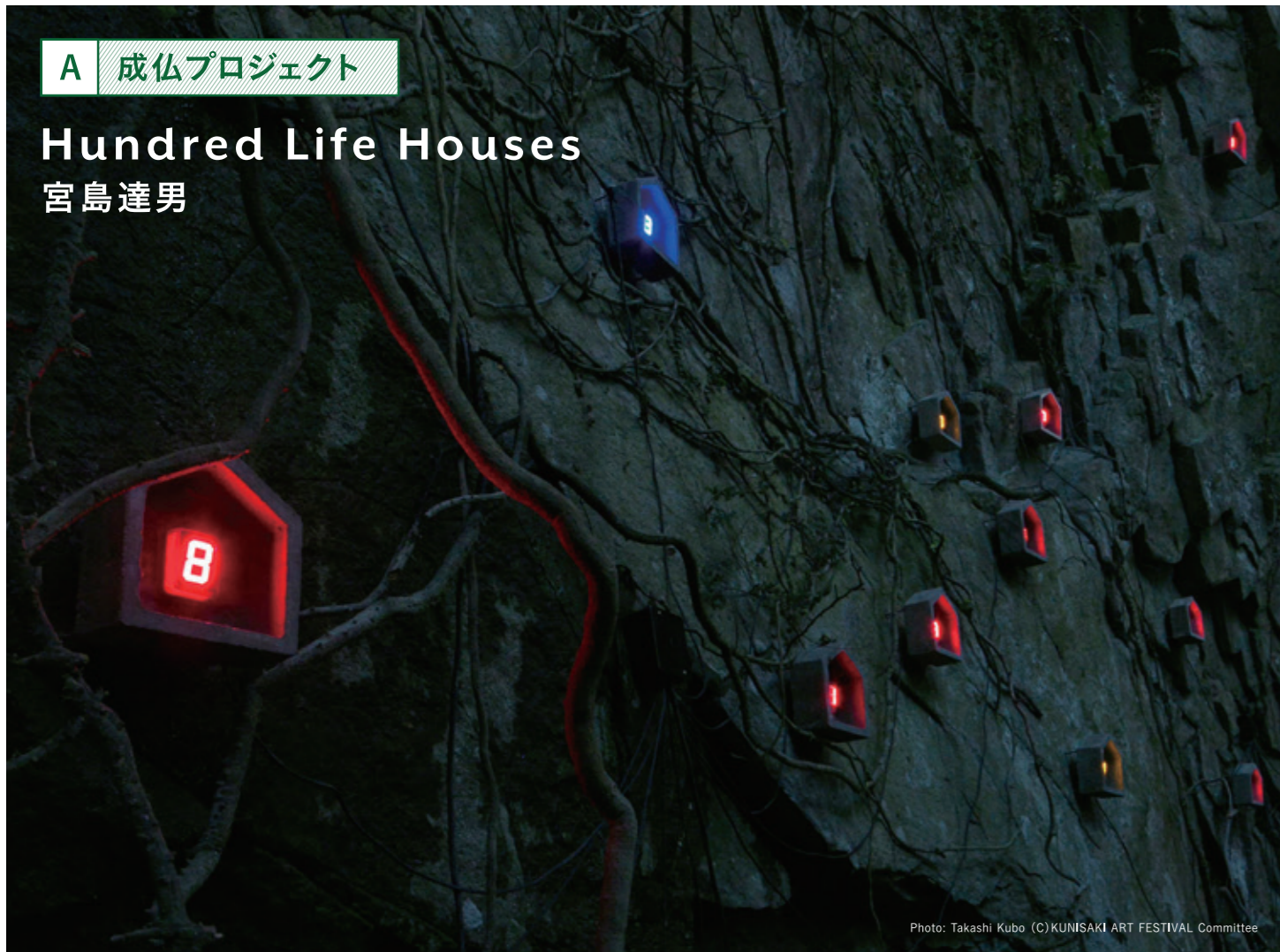


Photo: Takashi Kubo (C) KUNISAKI ART FESTIVAL Committee

火砕流の影響で多くの岩場が形成されている国東半島。古来から人々はその岩肌に祈りを込めて数多くの仏の姿を刻み込んできました。一説には国内の石仏磨崖仏の7割以上が大分県に集中しており、さらに現存するものの大半が国東半島にあると言われています。

現代の磨崖仏を目指した宮島氏は、縄文時代の出土品が発掘された成仏地区の遺跡に面した岩肌に作品を設置しました。100個のカウンター・ガジェットが岩肌に取り付けられ、各々の速度で9から1まで、または1から9までの数字を刻みます。そして0の瞬間に暗転し、またカウントをはじめます。これは宮島氏の代表的な手法で、生まれては死んでいく命とその輪廻を表現しています。

この地に脈々と受け継がれている生命とその営みを表現した宮島氏の作品は、地域の方々と30歳以下の若者、中国と韓国の留学生、計100名を対象にしたワークショップを通じて完成し、多くの交流も生み出しました。

場所：大分県国東市国東町成仏 成仏岩陰遺跡入口
鑑賞可能時間：9:00～18:00



紹介動画はこちら

アートとあわせて楽しみたい おすすめスポット | 成佛寺



隔年で旧正月5日に開催される『修正鬼会』

龍を封じ込めたという伝説があるお寺。国東半島の代表的な火祭り『修正鬼会』が開催されるお寺としても有名です。僧侶が鬼に扮して催されるこの奇祭は、岩戸寺と隔年交代で旧正月5日におこなわれます。

〒国東市国東町成仏1140
☎0978-76-0626 8:00～17:00

B 岐部プロジェクト

説教壇

川俣 正



Photo: Takashi Kubo (C) KUNISAKI ART FESTIVAL Committee

国東半島では、谷に隔てられた集落ごとに独自の文化が発展していきました。かつては谷を越え、集落間を行き来することも困難だったと言われています。その時代において、この岐部地区から歩いてローマに到達し、司祭の叙階を受けた青年がいました。いまここにはその青年、ペトロ・カスィ岐部にゆかりの教会があります。

ペトロ岐部の数奇な生涯に感銘を受けた川俣氏は、この教会の裏にある小高い丘に登ったとき、まるで野外に教会があるかのような神聖さを感じました。そして、この地に寄り添い、立ち止まって想いを馳せるための道と、人が集まり語らうための場を創りました。

ここを歩く何万人もの人々の足跡が道に刻まれ、すり減っていくことは、この場所でも共有したたくさんの時間や体験が作品を変化させていくこと。そうして森と一体化していくことが、この作品にとって重要なプロセスであると語られています。

場所：大分県国東市国見町岐部536



紹介動画はこちら

アートとあわせて楽しみたい おすすめスポット | 国見ふるさと展示館



明治初期に建てられた邸跡は庭園も見事

明治初期に築造された庄屋屋敷を利用した展示館で、『六郷満山文化』をはじめとする国見町の文化に触れることができます。敷地内の『城山亭』では、地元の食材を用いたお食事も楽しめます。

〒国東市国見町岐部536 ☎0978-83-0321
9:00～17:00 休 水曜日(祝日の場合は翌日)、12/29～1/3
大人200円 ※団体割引(15名以上150円)、中学生以下無料

川俣 正 Tadashi Kawamata



1953年生まれ。28歳でヴェネツィア・ビエンナーレの参加アーティストに選ばれて以降、欧米を中心に高い評価を獲得し続け、2005年には横浜トリエンナーレの総合ディレクターを務めた。また、東京藝術大学の先端芸術表現科の立ち上げに主任教授として着任し、既存の美術表現の枠組みを超える試みを実践。現在はフランス、パリ国立高等芸術学院の教授を務める。



森の樹々に設置された鳥の巣箱は、地域の方々とのワークショップで作られました。

C 千燈プロジェクト

ANOTHER TIME XX

アントニー・ゴームリー



Photo: Takashi Kubo (C) KUNISAKI ART FESTIVAL Committee

国東半島に根付く「六郷満山文化」は、仁聞菩薩によって開かれました。仁聞菩薩は、まずこの千燈地区に寺を開き、国東半島全域で修行を行い、やがてこの地で入寂したと伝えられています。

ゴームリー氏は1970年代にインドで仏教を学んで以来、自身をかたどった鉄製の人体像を作り続けています。ここ千燈地区では、修験者たちの修行の場でもある切り立った岩場に鉄製の人体像を設置しました。東方に向かって佇む人体像の視線の先には、海まで見晴らす絶景が広がっています。鉄製の人体像は、風雨にさらされ錆に覆われながら、日々変化を続けています。かつて製鉄が行なわれていたというこの土地に、やがては砂鉄となって帰っていくでしょう。

また、約700kgの彫刻を岩場に設置することは大変困難でしたが、地元の農家さんや千燈寺住職をはじめ、多くの地域の方々のご協力により設置が実現しました。

場所：大分県国東市国見町千燈



紹介動画はこちら

アートとあわせて楽しみたい おすすめスポット | 旧千燈寺



旧千燈寺の本堂跡にたずむ
半肉彫りの仁王像

養老2年(718年)に国東六郷満山寺院を開基したといわれる仁聞菩薩が最初に開いたお寺の跡地。旧千燈寺から『ANOTHER TIME XX』までは、半肉彫りの仁王像や仁聞菩薩の入寂の地、五輪塔群、五辻不動尊など、見どころの多いトレイルコースです。

〒国東市国見町千燈

アントニー・ゴームリー Antony Gormley



photo:Lars Gundersen

1950年ロンドン生まれ。彫刻家。主な作品にエンジェル・オブ・ザ・ノース(イギリス)、アナザー・ブレイス(イギリス)など。主な国際展にヴェネツィア・ビエンナーレ(1982年・1986年)、ドクメンタ8(ドイツ)など。1994年ターナー賞、1997年大英帝国勲章(OBE)授与。2003年から王立芸術院の会員、2007年から大英博物館の理事を務める。2013年、高松宮殿下記念世界文化賞(彫刻部門)授賞。



地域の方々の知恵と技によって、簡易の索道を設け険しい岩場まで作品を運搬しました。
Photo: Takashi Kubo (C) KUNISAKI ART FESTIVAL Committee